

学校だより 希望の鐘

ひとつのぼんぼりいとしがひらかな



八 戸 市 立 小中野中学校

平成28年6月28日(火)

No.50

文責：校長
工藤聡

「見えない仕事」「見えない部分」を大切に！

6月18日(土)のことです。市中体開会式が終わり、学校に戻って来ました。すると、誰もいないはずのグラウンドで、一人でラインをひいている方がいました。「誰だろう?」と思って声をかけると、野球部のコーチの後藤さんでした。「ありがとうございます」と言うと、「いえいえ」と言いながら、「明日の市中体の試合に向かって、少しでも気持ちよく練習してもらいたいと思ったので」ということでした。後藤さんの額には大粒の汗が光っていましたし、そばには、トンボやジョウロもあったので、かなりの時間をかけて一人でグラウンド整備をしてくれていたということに感動しました。野球部のほかのコーチの方もそうですし、野球部以外の部のコーチや指導に来ていただいている人(保護者の方を含めて)全部がボランティアです。仕事をするかのように、何かしらの報酬(ホウシュウ:働くことで得るお金や品物)を得ているわけではありません。そのような方すべてが、小中野中学校のみなさんのためになりたいという気持ちで指導してくれています。本当にありがたいことです。先日は、北青葉町内会の会長さんから、「いつもグラウンドわきの草取りを、近くの古川さんがやってくれているのを知ってますか?」という連絡をもらいました。全然知らなかったことに、校長として反省するとともに、こういった方々の「見えない仕事」のおかげで、小中野中学校の日常の教育活動ができていることに感謝しなければならなかったと思いました。毎週、火曜日と金曜日に来ていただいている図書ボランティアの方々もそうですし、先日教室の壁をきれいに塗ってくれたおやじの会の方もそうです。細かいことを言えば、さきほどの北青葉町内会の稲辺会長さんも、学校だよりを回覧してくれるお手伝いをしてくれています。よく、『氷山の一角』という言葉があります。氷山の90%は水面下にあり、水上に出ている部分から水中の形を推測するのは困難なのだそうです。私はみなさんに、水面下にあって「見えない仕事」をしてくれている人を大切にする人間になってほしいと思います。あのタイタニック号も、その氷山の「見えない部分」にぶつかって沈没したわけですから…。

しかし、「見える部分」ももちろん大事です。初めて会った人に、「見えない部分」を感じることは不可能です。ですから、「見える部分」を通して、徐々に「見えない部分」も浸透していく(理解してもらう)わけです。2年生は、来週からそれぞれの事業所にグッジョブで出掛けます。いくらやる気があっても、その事業所の仕事に興味を持てないと、最初の印象が悪ければスムーズに行きにくくなってしまいます。「見える部分」として、身だしなみ(服装)やあいさつ、返事などが重要となってくるわけです。そして、そのグッジョブも、事業所にあらかじめ承諾を得てくれた、保護者の方々や学年の先生方の「見えない仕事」が土台にあることも忘れてはなりません。

さて、もう一度「見えない部分」に戻しましょう。先日、ある写真を見る機会がありました。私の後ろから撮られた写真です。私を狙って撮ったわけではありませんが、そこには私の後頭部がバッチリ写っていました。そして、それを見て愕然(ガクゼン:ひどく驚くこと)としました。写真に写っている私の後頭部には、完全に髪の毛がなかったからです。2年くらい前から、家族には「薄くなってるよ」とか「何か対策をとった方がいいよ」と言われていたのですが、私にはそれが一切見えないため、危機感が全くなかったのです。それが、このような状態になっているとは…。

人間には、自分には見えていないけれども、ほかの人にはすべて丸見えということがよくあるのではないのでしょうか。そして、その見えない部分が意外と重要であったりするものなのだと思います。みなさんも、誰もわからないと思って、コッソリやっているつもりのことでも、家の人は知っているということがよくあるのです。

(⇒裏に続きます)